

人との交流は？

子育てを通して、まず、家族との結びつきが得られました。また、家族のみでなく、妻の友人、子どもの友達、近所の方など、知り合いをどんどん増やしていくことが出来、楽しいです。交流の輪に入りにくい方もいらっしゃるようですが、私は、学童クラブや野球などで繋がりを作ることが出来ています。キャンプやバーベキュー、スポーツ等の趣味を通して、楽しく人と触れあっていたいと思います。

サポートについて

地震などの災害時に、子ども達が学校でなく家にいた場合、地域でのサポート体制が整うと安心です。

男性の育児休業については、私の時にはまだありませんでした。もしあったとしたら妻と話していたと思います。けれど、前例が無く、私は取らなかったと思います。今も、会社で父親の育児休業を取れる部署は限られているのが現実です。制度はできても実際には使えないことが多いのだと思います。

家族間での会話は？

日曜日の夕食は必ず家族の団だんらん樂らの場になっています。

学年が上がるにつれ、子どもと会話する時間が短くなってきていますが、その分、内容は濃くなってきていることを感じます。帰宅し家事をしている間にも二人の子は私のあとを追いながら、同時に色々な話をしてくれます。また、「気をつかわなくてもいいよ」と、子どもの方が気遣ってくれるような時もあります。

夫婦間の会話は、それぞれが子ども達と話す時間の方が多いのですが、妻と子どもの成長過程を話したりする時には、お互いの観点が違っていて面白いのです。

お子さんへの思い

小さい頃は手がかかるけれど、とにかくかわいくて、歩き出したり話しはじめたりと日々の成長を身近に感じられたことは、本当に良かったです。

今はなまいきな口をきいて、憎らしいと思う時もあるけれど、一緒に考えながら色々な事に取り組めるようになってきました。

つてきました。

世話をする「親」から、良き「相談相手」に関係が変化していくなか、人格を持った一人の人間として子ども達と接していきたいと思っています。

子どもに関わる時間は多くないけれど、働く両親の姿を見て、子ども達自身も生きがいを見つけ邁まい進しんしていつて欲しいです。そして、健康であること、これが一番の願いです。

ご夫婦で話し合い、納得して取り組み始めた家事と育児。永井さんは、大変と思うよりも面白い楽しいと感じて、何事にも取り組んでいらつしやるのだと感じました。

育児をきっかけにして今では多くのことをマスターされている永井さん。ただ一つ、裁縫だけはどうしても苦手とのことでした。

